

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
21・7・18(土)
南NEWS no 1

目標 (めあて)

幼児・1年生の目標は憧れから。先輩のプレーを観て、あんなふうになりたいと目標を持ちます。

高学年の子は強いチームに敗れた時、次はもっといい試合を、勝ちたいと目標を持ちます。

7月11日(日)の南の幼児・1年生は南OBの先輩たちと練習、ゲームをして、憧れから自分の目標ができたことと思います。

同じ日のU-12では、南の5・6年生はシルクに0-12、順徳ガルダに1-8と敗れました。悔しいいっぱいの中で次はもっといい勝負を！勝てるようになりたいと思ったことでしょう。目標ができました。

矢上は中一からサッカーを始めました。小学校では体育でもサッカーはなく、サッカーを知りませんでした。でも中一から部活はサッカーに入りました。

川口市立仲町中学校、中三の5月、埼玉県の学徒総合体育大会で準優勝したのです。準決勝は児玉の中学に6-0と大勝し、決勝戦に臨みました。

決勝戦では浦和市立木崎中学校に3-0で完敗でした。左のウイングに近江俊介という快速FWがいて、そのドリブルを止めることができずクロスから3点を決められて敗れたのです。

高校に入ってからの目標は打倒浦和でした。毎日練習に励み、高3の時は、暗くなるとグラウンドを10周のインターバル走でスタミナをつけて学徒総合体育大会に臨みました。

準々決勝で浦和南に1-1の延長から2点を取って3-1で勝利。延長の2点は矢上の左からのクロスのアシスト2本でした。Wタッチの技で相手DFを抜き去ってのクロスでした。

準決勝は中学の時は勝った児玉に0-4で完敗、3位決定戦に。相手は浦和高校。中学の時のチームメイト浅倉君がいる高校でした。1-1の引き分け。抽選で敗れて関東大会出場を逃したのです。浦和高校は関東大会3位入賞を果たしたのです。

高3の冬、全国高校選手権で浦和市立が優勝しました。浦和市立には木崎中の近江君がエースで活躍していたのです。近江君は法大、日立本社(レイソルの前身)と活躍し、日本代表の試合にも出ていました。

高校3年生の時に浦和市立とは2度対戦したのですが、前半は1-1の互角の勝負でしたが、後半に突き放されて3-1。2試合とも同じ展開でした。でも中3の時より戦えるようになったという手ごたえはあったのです。

打倒浦和を目標に練習・試合をGAMB Aった高校3年間でしたが、振り返ってみれば充実した日々でした。学校をんでも部活には出た中学校3年間と合わせて、私の人生の土台を作ってくれた6年間だったと思っています。

小学生でも自分の目標を持って努力することは成長につながります。南の45年の歴史の中で、サッカーを通して成長する姿を何人も観てきました。たくさんの顔が目に浮かびます。

南の5・6年生は11日の試合を振り返って、これからの目標を確認してください。それが成長につながります。

勝てなかった相手との差が目標になります。GAMB Aノートに書き出して練習メニューを考えてください。

目標達成のためのお手伝いをします。 by 南の安版万



「2021-4-24(土) U-12 12ブロックリーグ」

会場：北川原グラウンド



○めあて：5つ観て判断/パス&ムーブ/チャレンジ&カバー

①×南八王子 0-12 シルクロード (A) 前半0-4

前半9分までは、お互いの距離に注意してコンパクトに守備ができました。2本ほど危ないシュートを打たれましたが、ほとんど崩されることなく、クーリングブレイクまで0-0で折り返します。再開は自陣のゴールキックからでしたが、それをそのまま奪われて失点してしまいます。その後もさらにゴールキックやパントキックを相手に奪われて残念な失点が続きました。

②×南八王子 1-7 潤徳ガルダ 前半0-3 得点：カツヤ君 (A ユヅキ君)

前線にパワーがある選手、ドリブルが上手な選手が並ぶ攻撃力のあるチームが相手でしたが、よく集中して試合に入っていました。でも、前半4分、大きく浮いた自陣右サイドのボールに誰も寄せずにシュートを打たれ、変則的なバウンドをしたボールでゴールを割られてしまいます。

ドリブルやコンビネーションでサイドを突破することができ、同9分にはクロスからアサキ君のシュートもありました。同16分に自陣左サイドの相手スローインがギャップに落ちて、やはりアプローチが遅く、拾われて失点。五分五分の展開でしたが、ここから崩れてしまいました。後半17分に相手陣地に人数をかけて攻め込み、ユヅキ君の横パスをカツヤ君がゴールし、1点を返しました。

★試合を振り返って

延期が続いていた全日本U-12サッカー選手権大会の地区予選です。とても暑い気温に加えてグラウンドの芝が湿気を含み、とても体にきびしい状況でした。相手も同じ条件ですが、守備する時間が多かった分、南の選手はかなりきつかったでしょう。

コンパクトにブロックして守備をすることがずいぶんできるようになっていたのも、強い相手にどこまでできるか楽しみな試合でした。結果は残念なスコアになってしまいましたが、シルク戦ではクーリングブレイクまでの約10分、相手を自由にさせないすばらしい守備ができていたと思います。潤徳ガルダ戦でも南が攻める場面がたくさん見られ、スコアほどの力の差はありませんでした。

失点の半分はゴールキック、GKからのパントキック、スローからでした。ほとんどのボールを相手に拾われてしまい、相手は前を向いた状態になり、南はハーフとバックの距離が空いた状態に対応する場面になっているため、一人抜かれたらとても危ない場面になってしまいました。

潤徳ガルダ戦では、サイドでワンツートを交えた良い攻撃ができましたが、パスがズレてチャンスが広がらないことも多くありました。キックや浮き球の処理を練習していきましょう！

by 中村元コーチ

